

2020 年度 大学院春季入試（英語学専攻）

博士課程（後期）

専門科目 言語文化学

---

【合否判定の方法】

提出書類および試験、面接の成績を総合的に評価し、合否を判定する。

【合否判定の基準】

提出書類および各試験の結果を総合的に評価し、研究計画の妥当性および博士課程における研究遂行能力を有しているかを判断する。

1 試験日 2020 年 2 月 14 日

2 科目 言語文化学（100 点満点）

3 出題意図

本試験は、言語文化学に関する読解力、説明力、専門的知識の応用力、および研究計画立案能力を総合的に評価することを目的とするものである。特に、設問 3a および 3b に重点を置くよう指示されている点から、受験者の研究適性および博士課程後期課程における研究遂行能力を重視した構成となっている。

設問 [1] は、構築言語に関する英文読解および要約・説明能力を問うものである。本文（1 ページ目）では、エスペラントやイド、クリンゴン語などの事例を通じて、構築言語の歴史的展開と社会的機能が論じられている。受験者には、本文の主旨を的確に把握し、重要な論点（言語創造の目的と実際の使用動機の乖離など）を整理したうえで、簡潔かつ論理的に英語で要約・説明する能力が求められる。

設問 [2] は、エスペラントに関する英文を踏まえつつ、未知の読者に対して別の言語を紹介する課題である（2 ページ目）。ここでは、本文の内容理解に加え、構築言語の分類や機能に関する知識を応用し、適切な説明を行う能力が評価される。単なる知識の提示ではなく、読者を意識した分かりやすい説明構成や、具体例を用いた説明力が重視される。

設問 [3a] は、自身の研究テーマが言語と文化の分野にどのように位置づけられるかを説明させるものである（3 ページ目）。受験者には、自身の研究内容を具体例と関連理論に基づいて論じることが求められ、専門分野における理解の深さ、理論的枠組みの応用力、および

論理的な構成力が評価の対象となる。

設問 [3b] は、研究計画の具体的な遂行方法を説明させる課題である（4 ページ目）。研究の構成、方法論、進行手順などを明確に示すことが求められ、研究計画の実現可能性、論理性、および体系性を評価することを目的とする。ここでは、博士課程後期課程における自立した研究遂行能力が特に重視される。

以上を通じて、本試験は、英語による読解・記述能力に加え、専門知識の応用力、研究の位置づけと展開に関する理解、ならびに研究計画立案能力を総合的に測定し、博士課程後期課程における研究遂行に必要な資質を有しているかを判断するものである。

以上